

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078100080		
法人名	有限会社 里心		
事業所名	グループホーム 里心		
所在地	福岡県八女市黒木町木屋6337-1		
自己評価作成日	平成26年3月15日	評価結果確定日	平成26年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=40">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=40</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成26年3月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで空気の澄んだ環境の中にあり、小鳥のさえずりや四季折々の景色を堪能できる場所で、ご入居者、スタッフの笑顔や笑い声が多く、安心できる関係作りに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム里心」は自然豊かな黒木町において、開設から10年を越えて地域福祉を支えてきた単独型の2ユニットグループホームである。代表がもつ、「地域の憩いの場をつくりたい」との目標の通り、温かみのある木造建築で、ふる里の心を込めて「里心」と名付けられた。自然に囲まれた土地柄で春の桜、夏のホタル、秋の紅葉、冬の雪模様など折々の変化が間近に感じられ、周囲の木陰にはベンチや椅子なども置かれている。提供する料理も、自主栽培された米や野菜など、地元の採れたてのものを使い、喜ばれている。開設当初から地域とも良好な関係が築かれており、近隣からの入居者も多く、職員も地元出身で顔なじみの関係がある。名前の通り、心にこだわったサービスを提供し、入居者一人一人の「思い」を大切にしている。これからも町を支える福祉施設として、発展が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価(うさぎ棟)		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念を唱和、実践に心掛けている。入居者様の立場になってのケアを心掛けている。	法人の事業理念とグループホーム独自の「私たちの理念」が開設時に作られており、入居者、家族、地域の立場から職員の立ち位置を定めている。入社時に理念を伝え、事務室、玄関、ホールに掲示もされる。毎日の唱和によって共有も図られていた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	元々地元である為、関わりが長く、ホーム長は消防団や商工会に所属し、地域の繋がりを大切にしている。清掃活動に参加したり、ホームの祭りには地域の方々に多く参加して頂いている。	職員も地元の出身が多く、年に2回の清掃活動や地域行事には事業所からも参加しており、ボランティアサークルや社協の歌祭には入居者も一緒に行っている。事業所の「里心祭り」も毎年、地域の方を招いて盛大に行い、日常的にも花や野菜の差し入れなど交流がとられていた。	地域に向けた情報発信や、認知症の周知のために、勉強会などを他施設などとも共同しながら行われてはどうか。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で伝えたり、研修で学んできた事を報告したりして地域の方々にも知って頂けるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況、行事報告や、事業所の抱えている悩み、地域で抱えている悩みを出し合い、意見・情報交換を行っている。	役場、社協、公民館、老人会、地域包括など幅広い地域からの参加があり、避難訓練や行事と一緒に開催して、地域交流やサービスへの取組も実際に見てもらっている。研修資料を回覧することもあり、意見や質問なども活発に出され、地域情報の交換や相談をもらうこともある。	地域代表などの参加は多いが、家族参加が少なかったため、情報共有のために議事録の閲覧、公開をすすめ、参加につながっていくことにも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、地域包括支援センター、社協と連絡を取り合い、入居情報等の共有を行っている。	市の福祉課を中心に、事業所連絡会も組織されており、2ヶ月に1回、意見交換なども行われる。支所の窓口にも介護申請などで訪問し、担当課と関わる機会が多い。担当者とも顔なじみで相談事もし易く、情報をやりとりして入居紹介を頂くこともあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会において、毎月拘束の状況報告を行っている。身体拘束の取り組みについては、施錠をしないケアについて、スタッフ全員理解し、取り組みを行っている。	身体拘束廃止委員会を組織しており、現状報告や注意喚起をしている。玄関、裏口は施錠せずセンサーチャイムで見守り、万が一の離脱にも地域の方から連絡が入るように依頼しており徘徊ネットワークにも協力している。言葉かけなどは日頃から管理者が注意を行う。	事業所全体での理解を進めるために、スピーチロックも含めた全体的な拘束に関する継続的な研修や勉強会が行われることが望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や、更衣時に身体の状態を観察している。			

H25自己・外部評価表(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価(うさぎ棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加しているが、知識としては全員が把握しているものではなく、勉強不足である。	今までに制度の利用はなかったが、申請の支援を行ったことがある。案内のある時は外部研修にも参加をしたかったが、昨年はない。制度の説明用にパンフレットや資料など準備をされている。	職員にも一般的な制度理解を進めるために、計画的な研修の開催がなされることに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の段階で、きちんと納得した状態の上で利用して頂けるように説明し、理解していただくように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何かあれば、ご家族から管理者もしくは職員に伝えていただけるように努めている。	家族からの意見は面会時に聞くことが多く、遠方の方には、毎月担当職員がおたよりを書いて、請求時に郵送している。意見は申し送りノートに記録し、ミーティングで話し合い、口頭で報告も行う。事業所発行の「里心だより」は3ヶ月毎に案内し、以前は家族会も開催していた。	家族との交流を深め、より意見を引き出していくために、家族との合同行事や、懇親会、家族アンケートなどの企画を検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時もしくは随時、機会を設けており、検討して反映させている。	毎月、全職員が参加するミーティングがあり、前月の反省や各委員会報告、行事予定などが話される。皆同じように意見を出し合い、反映もされており、行事企画などに活かされている。日頃からも気づいたことがあればホーム長や代表にも気軽に相談できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりを見て適切な評価を行うように心がけている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接希望があれば、その時点でお断りせずに、一度お会いして話しをしてみようから判断するように努めている。また、職員が仕事もプライベートも楽しめるように休日希望等の配慮にも努めている。	面接は2名で担当することで、偏りのない採用を行い、20～60代まで幅広い職員が働いている。資格取得時もシフト調整などを柔軟にし、研修案内も行う。委員会活動や係の振り分けがあり、全ての職員が担当を担っており、レクリエーションの研修などを受けてたり責任をもって職務にあっている。	職務と休憩のメリハリをつけて、集中した業務に取り組んでいくために、定期的な休憩時間の確保が図られることに今後は期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にも掲げ、毎日復唱している。ミーティング等で職員等に対する周知を行っている。	代表が外部研修にも参加し、入居者を尊重した態度でケアにあたるよう周知している。理念にも「入居者の立場に立つ」とあげられており、日頃から心がけている。	事業所全体での人権教育や啓発のために、外部研修の伝達や、民生委員や公民館、関連団体などの力を借りた勉強会などを検討されてはどうだろうか。

H25自己・外部評価表(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価(うさぎ棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を把握し、その職員に合った研修を勧めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加したり、所属団体の交流会に参加しネットワークを広げるよう勧めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暮らす環境の変化による戸惑いや不安を少しでも軽減していくために、本人様とのコミュニケーション作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや要望を聞き出し、不安を軽減できるよう、コミュニケーション作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階で、何を一番望んでいるのかを聞き出し、少しでも早く安心して生活できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみを一緒にしたり、体操、レクリエーションの間にも談話する時間を作り、入居者様同士や、スタッフとも良い関係が出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のホームでの様子、状態や思いを毎月手紙にして伝えている。また、3ヶ月に1回発行の新聞にてお知らせしている。面会や行事の際に、一緒に過ごす時間を築いて頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内での買い物や、通院先で地域の方と会う事もあり、ホームへ来て頂けるよう声掛けをしている。また、友人や近所の方がホームへ来られる事が多く、入居者様とゆっくり話して頂けるよう努めている。	個別ケアによって行き慣れた美容室に連れて行ったり、買い物に行くこともあり、個別に対応することによってゆったりとしたケアが行えて喜ばれている。支援が難しい時は家族に依頼することもあり、自宅外泊も行い、知人や友人の来訪もし易いように、気軽に入りやすい雰囲気を作っている。地域から敬老会に呼ばれて参加することもあった。	

H25自己・外部評価表(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価(うさぎ棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う方、合わない方等いらっしゃるが、スタッフが間に入り、コミュニケーションを取れるように支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られたり、入院となられた場合も面会や見舞いに行く等し、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることが出来る方は尋ね、困難な方には身体状況等考慮しながら、なるべく希望に添えるようプランを立て、ケアに努めている。	初回のアセスメントの後や必要な時は1ヶ月で見直しを行うが、その後は6ヶ月の定期間、状態に変化があった時に随時再アセスメントを行っている。ミーティングなどで現場からの意見を反映させ、家族とは電話や面会時などにやりとりをして、意向の把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて生活歴を把握している。また、利用されていた施設での生活等も尋ねるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、一人一人との会話で心身の状態をチェックし、個別での家事仕事や音楽、テレビ鑑賞等の希望などを把握するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会等に来て頂けるご家族には、その時々で意向や要望を聞かせて頂いているが、遠方のご家族との話し合いが困難である為、郵送等で対応させて頂いている。	担当制によって各職員が受け持って3ヶ月のモニタリングを行う。ケアプランの見直しは6ヶ月で行い、其の際の担当者会議には職員が全員参加することで情報共有しており、家族からも意見照会、参加してもらうこともある。面会時には実施記録の確認もしてもらっている。	ケアプランの項目の実施状況が確認できるように、実施記録とプランの一体的なファイル管理をされてはどうだろうか。また、ユニット同士での情報共有や、担当者会議時の外部の専門家との意見照会などで、チームケアへの取り組みが進んでいくことにも期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にて個別に記録し、気づいたことがあればすぐにスタッフ間で情報を共有しモニタリングにて見直し実践している。		

H25自己・外部評価表(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価(うさぎ棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介や買い物の送迎、地域イベントへの送迎を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の施設より招かれた歌謡ショーや、ボランティアの方主催の歌まつりに参加したり、ホームでの祭りや、敬老会にボランティアの方の協力を得ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、その他の協力病院の説明を行い、希望に添えるようにしている。また、専門医への受診にて適切に医療を受けられるよう努めている。	希望するかかりつけ医を継続できるが、なければ提携医に変えてもらっている。以前は2週に1回の往診だったが、状態が安定しており、今は月1回行っている。定期受診は家族とも協力して支援し、同行することもある。医療情報はその都度連絡をとりあって共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力病院の看護師へも状態を伝えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	慣れない環境で混乱されないよう、安心して頂けるよう面会に行っている。また、主治医や看護師等へ経過や状態を尋ねる等、情報交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ターミナルについての受け入れの方針を説明している。また、状態が変わった時、低下している際に家族や医師とも話し合い本人、家族の希望に添えるようにしている。	今までに看取ったケースも何件もあり、事業所での最期を希望される方も多く、住み慣れた場所での看取りを支援している。契約時や重度化の際に方針を説明しており、家族や提携医の看護師とも協力して対応し、職員も経験を積んできている。機会がある時は外部研修にも参加して知識を深めている。	今後の支援体制の強化として、医療や看護との連携体制の検討や、看取りに関しての説明、同意書類の準備がなされることが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時や、研修にて訓練を行っている。また、応急手当普及員講習を受講したり、その他講習があれば受講している。		

H25自己・外部評価表(GH里心)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価(うさぎ棟) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。地域との避難訓練にも参加している。	地域の避難訓練にも参加し、以前は事業所の訓練と運営推進会議を同日に開催して取組を見もらった。消防署の立会での訓練も行っている。過去の災害も踏まえて地域の防災意識も高く、防災ラジオや防災マップ、AEDも準備されている。	防災に備えて、地域の協力体制がとられているが、より踏み込んだ相互協力の取組として、防災協定などを検討されてはどうか。毎月の訓練など、ますます防災への取組みが充実していくことにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさ、イントネーションに気を付け失礼のないような声かけをしている。	接しやすさと馴れ馴れしさが混同しないように、言葉遣いなど管理者や職員同士でも注意している。プライバシーにも配慮し、排泄や入浴時の不用意な露出をさけ、個人情報の取扱にも気を付けている。「里心だより」も家族用と地域用に分けて作成し、写真利用も許可をもらった物だけに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人思いを言って頂けるよう、声掛けや会話を大切に、自己決定につながるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事手伝い等、本人へ尋ねてから始めて頂くようにしている。また、何をしておきたいか等、希望に添えるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用したい服の決定や髪型等、自分らしい身だしなみができるよう支援している。散髪の支援も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ね、なるべく提供できるようにしている。漬け物等の馴染みの食材の提供、味つけを尋ねる等している。引き膳出来る方にはして頂いている。	米や野菜などは自家栽培の物をつかいながら、野菜をふんだんに使った健康的なメニュー作りがされている。入居者とも、買い物に一緒に行ったり、下ごしらえや配下膳など手伝えることを手伝ってもらっている。好物なども聞いて反映させ、旬の食材を使った新鮮な物を楽しんでもらっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に応じた食事、水分量、形態で提供している。栄養が偏らない様にバランスよく提供している。		

H25自己・外部評価表(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価(うさぎ棟)		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い介助が必要な方は支援している。週1回義歯洗浄剤を使用している。			
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してなるべく失禁の無いようトイレでの排泄を支援している。	それぞれの介護日誌に排泄の状態や水分量などを記録して、パターンの把握につなげている。随時情報を共有しながら適切な誘導を心がけ、退院時から状態改善して、紙パンツから布に変えられた方もいる。自分で出来る事は自分でもらい、夜間もなるべくトイレでの排泄をしてもらっている。		介護日誌によって、各入居者の状況把握を行っているが、週単位などの時系列での状態把握が出来るように排泄チェックシートを検討されてはどうか。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう排泄チェックを行い、個々に応じて運動やマッサージ、牛乳を摂って頂くなどして対応している。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、体調や希望に応じて入浴して頂いている。一人一人お湯の入れ替えをして気持ちよく入浴して頂けるようにしている。	基本的には週2,3回、午前から15:30までの対応を行っているが、希望すれば毎日でも入浴できる。拒まれた際も声掛けなどを工夫して、着替えのついでの入ってもらうなど無理強いしない対応を心掛けている。お湯も毎日入れ替えて、薬湯にしたり、それぞれの適温で入浴を楽しんでもらっている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の日々の状態に応じて、休んで頂けるようにしている。日中は体操やレクリエーション、外気浴やドライブ等の活動を行い、夜間の安眠に繋げている。			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化に早く気づき、スタッフ同士、用量、副作用について意見するようになっている。また、処方内容確認のファイルいつでも確認できるようにしている。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好きな事や嗜好品等、生活歴や会話の中から聞き出すようにして支援している。			

H25自己・外部評価表(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価(うさぎ棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出、外泊される方もあり、支援している。また、普段の会話の中から行きたい所等を尋ね、ドライブで楽しんで頂いている。	近くの公共施設や道の駅、公園などに外出し、近隣施設の催す歌謡ショーには2~3ヶ月に1回招待されている。全体での外出も毎月行い、季節の花見や買い物などを行っている。日常的な外出も多く、暖かい時期には庭で体操したり、好環境のもと、気軽に外出が楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される物の購入等、理解に応じて本人と買い物へ行ったり、スタッフにて購入できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば時間帯を考慮し、掛けるようにしている。手紙も要望があれば対応していく。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を出せるよう、壁飾りを工夫して作成している。	スタッフルームを中心に、ひし形に配置されたユニットがつながっている。壁には手作りの花飾りや行事の写真が並び、季節感のある雰囲気が作られる。ユニットがつながることで、所内も見回しやすく、ユニット間の行き来もし易い。建物の周囲を様々な木々に囲まれ、窓からは季節折々の情景を楽しむことが出来る。玄関前の庭木のもとにはベンチや椅子もおかれ、外気に触れたり休憩したり憩いの場ともなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでくつろいで頂いたり、気の合う方と過ごして頂けるよう、テーブル配置、席の位置を工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。お孫さんの写真を飾ったりして、楽しんで頂けるようにしている。	ベッドはそれぞれが使い慣れたものを持ち込んでもらい、希望があれば介護ベッドを準備している。クローゼットや押入れは備え付けられ、収納スペースは広い。家族との写真や敬老会での作品など賑やかに部屋を彩っていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の居室にネームプレートを付けたり、場所の表示をしてわかりやすくしている。		